

ドイツ

ブラウンシュヴァイクへ 行ってきました!

大坂教会 米田 節子

2018年10月25日から11月2日の9日間でブラウンシュヴァイクを訪問しました。「るうてる」1月号で秋山仁牧師が詳細な報告をしてくださいましたが、今回は日本福音ルーテル教会の信徒として、また、るうてる法人会連合につながる法人職員としてメンバーに加えていただきました。最初にお聞きした時には、単純に「ドイツへ行きたい!」から始まりましたが、参加を決め、いろいろ準備を進めていく中で、訪問の目的や目標が次



ドイツビールで乾杯

第に浮かび上がった。一般的なお光ガイドブックではあまり登場しないブラウンシュヴァイクという町ですが、行ってみますと歴史のある

落ち着いたドイツらしい町でした。今回の訪問中の最大の行事は、宗教改革主日にドーム(大聖堂)で行われた記念礼拝でした。カトリックとの合同礼拝で、ルーテルのELKBマインズ監督やJELC大柴議長に加え、カトリックの教区司教も出席された大きな礼拝で、その場にいられたことに深く感動しました。ELKB本部を訪問しての交流もあり、10月28日の日曜日はパートナーシップ締結50周年記念礼拝にも出席しました。社会福祉の関連で、高齢者や障がい者の施設、住宅を見学し、子育て中の母親支援の施設や地域の生活困窮者、難民支援の施設なども訪問しました。教会での礼拝後、信徒の方々の手作り



ブラウンシュヴァイクの町並み

のお料理で心のこもったおもてなしを受け、身振り手振りでの交流は楽しいひと時でした。

今回は本当にブラウンシュヴァイクの皆さまが国賓級!? と思うほどよくしてくださり、とても大きな恵みをいただきました。これからも共に祈り合う教会でありたいと心より願います。



昨年10月28日、日本福音ルーテル教会とのパートナーシップ締結50周年記念礼拝が行われた。ELKB:ドイツ・ブラウンシュヴァイク福音ルーテル領邦教会。

海外 結ばれて 海外 主に



サバ神学院訪問

恵みを分かち合う交流

市ヶ谷教会 石原 京子

アメリカ、フィンランドなど、海外の教会から助けを受けながら、日本福音ルーテル教会は、1993年に宣教100年を迎えました。

婦人会連盟(当時)は感謝の気持ちを、アジア宣教のお手伝いで表したいと、日本兵が使っていた壕の中にエンユー先生が設立した「サバ神学院」の神学生に奨学金を送ることを決めました。

交流から25年の昨年7月、もと連盟役員4人、通訳役の梅田さんとサバを訪問しました。交流が始まった時から連盟との架け橋役のケンピン先生が、今期の奨学生4人との対話、元奨学生が牧師にな

り働いている三つの教会を訪問する計画を立てていただきました。

今期奨学生4人は、女性会連盟の支援を感謝し、農村伝道に、主の愛を知らない人のために宣教したいと抱負を語りました。

訪問した二つの教会は山の斜面に、また野生のドリアン、マンゴーの木が茂る所に建てられて、共通していることは催し物をして人を集めることから始め、礼拝に導いていくことでした。

奨学生初のイエン牧師は、サバで2番目に大きい教会の牧師となり、「私の宣教の土台は、日本の女性会連盟の祈りと支援です。国内伝道だけでなく、宣教の難

イスラム教の国で、神学生を教育しているサバ神学院と交流を続けている女性会連盟の働きに、主の祝福と恵みを感じた旅でした。

「政権が変わり伝道が困難になっても、街にショッピング・モールができ若い家族の魅力となり、日曜日に教会へ行くのが遠ざかる心配も、私たちに与えられた宣教への神の恵みと受け止めています」と。

この力強い言葉を、連盟の聖書研究1月に与えられた箇所「イエス・キリストは昨日も今日もまた永遠に変わることのない方です。」を学びながら思い出していました。



奨学生初の牧師となったイエン牧師とケンピン先生ご夫妻



今期の奨学生4名



元奨学生が牧師になった教会での説教